

- 1 日 時 平成22年10月18日(月)
- 2 講 師 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授 浅野良一 氏
- 3 演 題 「現在の学校組織の課題と組織改善の視点」
- 4 内 容

現在の学校組織

○ フラットな構造

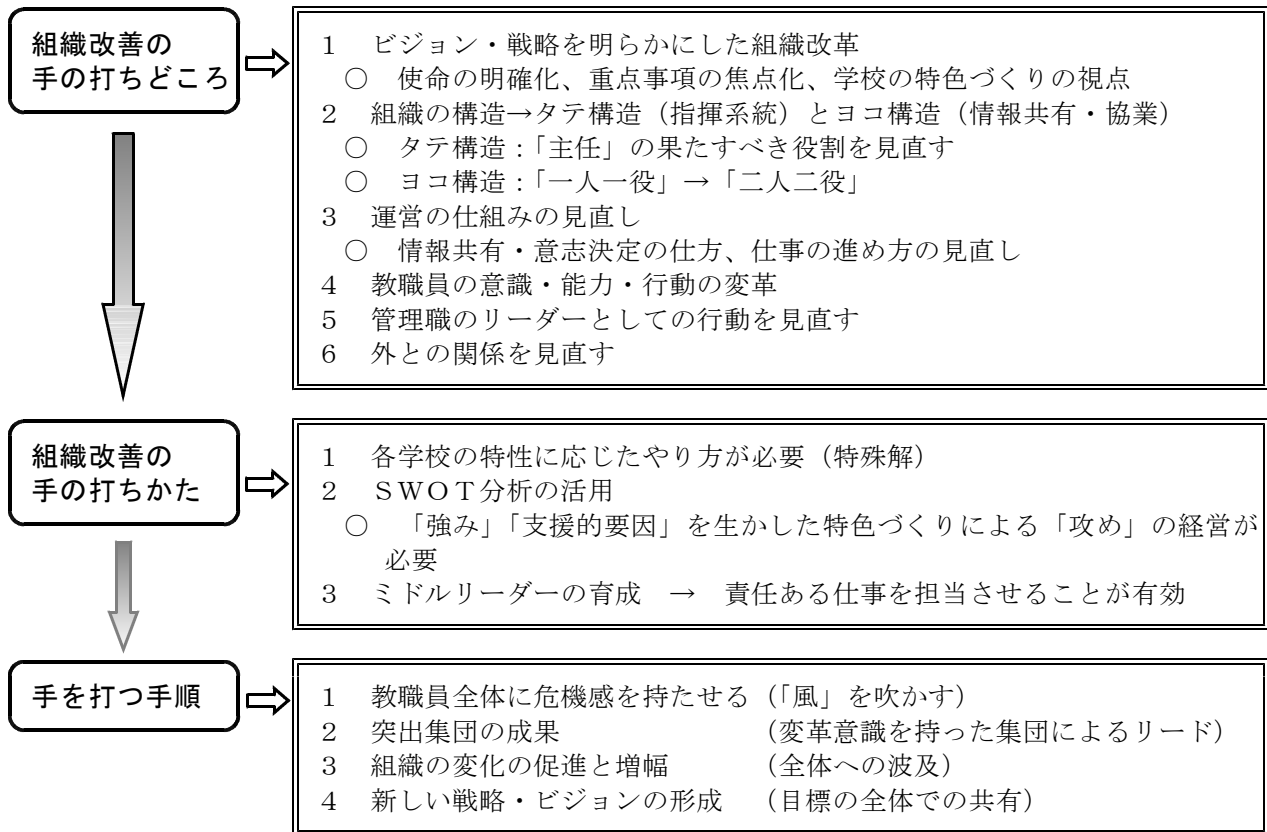
- ・ワイガヤ職場・・・自由な発想・挑戦意欲・責任感が増す、迅速な意思決定が可能
- ・業務の遂行や課題解決に向けてベクトルが一方向に向いていないことが多い

→ どのようにベクトルの方向を1つにしていくかが課題

〈参考〉企業組織 ピラミッド型→フラット型への移行の試み
 ※ピラミッド型を経験している企業がフラット型に近づけようとする場合、すでに向かうべきベクトルが一方向になっており、フラット型の組織が有効に機能する。

○ マトリクス構造・・・「分掌」「学年」「教科」が交錯した構造

- ・直属の上司、命令系統がはっきりしない
- ・一人の教員がいくつもの「役」



参加者の感想より

- ・学校マネジメントに対するスタンスの整理ができた。来年度に向けて情報共有の在り方等、見直しが必要な部分をピックアップする視点がわかった。
- ・ミドルリーダーを育成するには、責任を持たせて仕事を任せるということが大切であると再確認できた。今後は、自ら引っ張るのではなく、見守る姿勢を持ちたい。
- ・組織改善を行う場合、SWOT分析の結果を踏まえ、学校の「強み」を生かした改善策になっているかを確認していく必要があると感じた。
- ・校務分掌や役割分担の決定にあたって、「二人二役」の考え方を生かすことにより、危機管理や後継者育成の充実が図られると感じた。
- ・現在の学校組織のフラットな構造、マトリクス構造の長所・短所を踏まえ、その特性を生かしながら、組織改善を進める必要がある。